

部長挨拶

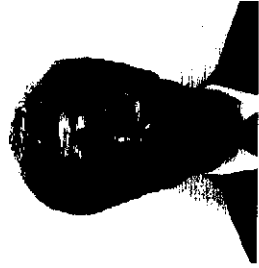
慶應義塾体育会バドミントン部部长

田村俊作

大震災にはじまり、節電、学事日程の変更と、いままでに経験したことのないできごとが次々と起こる一年が続きます。そのおかげで、大学バドミントンにおいても、関東大学バドミントン春季リーグ戦をはじめ春季の試合がいくつか中止になったのは、やむを得ないこととはいえ残念でした。

一方で、困難が人々に立ち向かう力を目覚めさせたのか、なでこジャパンをはじめ、今年のわが国のスポーツ界は例年になく元気が良いように感ぜられます。わが選手諸君においても、秋の試合にかけられる思いには今までになく強いものがあります。例年よりも少ない対戦機会を活かして十分な戦績を残すべく、選手諸君は夏の厳しい暑さに耐えて練習を重ねてきました。

伝統ある早慶定期戦は、今年で59回と、あと少しで還暦に手が届くところまで回を重ねてきました。震災の余波が未だに続く例年になく困難の中で、この伝統を途切れさせることのないよう開催にご尽力くださった早稲田の皆様にご心より感謝申し上げます。このところ慶應はチャレンジする立場が続いていますが、その結果はともかく、両校の現役もOBも、今日のこの一日を精一杯楽しみ、そしてまた明日へとつながる成果をあげてくれることを期待しております。



会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長

小杉良雄



今年、最も胸が痛んだことは東北沿岸地方を襲った未曾有の大震災・原発事故でした。心から一日も早い復興を祈らざるを得ません。また嬉しかったことは“なでこジャパン”の女子サッカークワールドカップ優勝と末綱・前田の女子ダブルス・バドミントン世界選手権の銅メダル獲得でした。女子は強いですね。

そんな中、春リーグの中止をうけながらも秋リーグで塾男子は4部昇格、女子は3部キープを果たし、きっと気持ち新たに早稲田さんに挑んでくれるものと期待しています。

近頃は早慶戦を迎える毎に、戦力から言って勝利することは難しいけれど“何勝まで取ってくれるのかな”一泡も二泡も噴かずよう頑張った熱戦を多くやって欲しいな”と願っています。

学生スポーツとは言いえやはり懸命に取り組み且勝利することが大事だし、敗れるにせよ接戦での苦杯がすべての人を感動させます。どうか両校現役諸君（特に4年生）、勝つことを目標にこの伝統ある早慶戦でハラハラ・ドキドキする感動を与える試合を見せて下さい。

そしてこの59回目の感動と思い出を各々持ち帰り、また来年の記念すべき60回に繋げましょう！

私にとってはプレー結果は勿論関心事ですが、引き続き二次会での早慶交流を楽しみにしております。華ある早慶戦の成功と皆様方のご健勝をお祈りいたします。

部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 関 一誠

第59回早慶戦の開催おめでとうございます。

本年の東日本大震災は東北地方だけに留まらず、日本全体が大きくなうねりの中で、大打撃を蒙り、復興への道のりが困難を極めているのが現状です。このことは、スポーツ界にも大きく影響が及び、早慶両大学の部活動にまで波及しております。部関係者の皆様の中にも直接、間接、大なり、小なり被災された方が多くいらっしゃるのではと心が痛みます。衷心よりお見舞い申し上げます。



早稲田大学の記念会堂も多少の被害を蒙り、二ヶ月にわたり使用禁止処置がとられました。慶應大学も同様な被害があったと聞いております。両校の部活動には大きな弊害となったことは間違いありませんし、現役諸君は練習にたいへん苦慮されたことと思います。

そうだったのもろもろの悪条件を工夫次第で克服し、乗り越えて技術向上に邁進して欲しいものです。

また、関東春季リーグが中止されたことから、今年度の学生にとって、実力を発揮する場が半減してしまったことは残念でなりません。しかし、震災の大きさからして、致しかたの無いことと受け止めざるを得ません。

そのような意味からも、この早慶戦を足がかりに「躍進の一步」としたいものです。両校の更なる活躍を期待しています。

会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 橋本太郎

第59回を迎えた早慶バドミントン定期戦、選手諸君には早慶戦らしい魂のこもった激戦を期待します。慶應義塾大学と早稲田大学、それぞれの校風の違いをバドミントンの戦いの中に体現していただきたい！と願う者です。

それがあってこそ、戦いの後のおいしいビールや両校の楽しい交流もできると信じます。



感謝！

早慶戦の日を迎えた。第59回定期戦。今年も早稲田と試合ができる。ありがたいことだ。今年ほど“当たり前のこと”にありがたみを感じる年はない。

3月11日の東日本大震災をきっかけに、ここ横浜でも日常生活は混乱を極めた。電気は止まり、電車のダイヤは激しく乱れた。ガソリンスタンドには給油待ちの自動車が行列を成し、スーパーに行っても商品棚には飲食物が何もない。水、牛乳、パン……日ごろ普通に手に入られたモノが悉く目の前から消えていた。規則正しく動くインフラを基盤として、欲しいモノが手に入り要求が充たされる不自由の少ない生活は、当たり前のことではなかったのである。

バドミントン部の活動に関しても、世の中の錯乱状態の影響を受けた。震災直後は余震の危険や計画停電に配慮し部活動そのものが禁止され、禁止令解除後も体育館やシャワールームの利用時間は大幅に制限された。翌日の練習予定や参加人数が事前に連絡することが日々求められ、練習開始前には避難路を確保するため体育館のフロアにつながるすべての扉を部員自ら開錠しなければならぬ。練習が終了したら大学に終了の報告をし、全部員が無事に帰宅できたかどうかの確認も毎日実施された。決まった時間に体育館に行けばそこには自由に使えるコートがあり、いつでも伸び伸びと練習できる環境もまた当たり前のことではなかったのである。

そして学生バドミントンプレイヤーにとっては究極の事象といえる春季リーグ戦中止の報が届く。昭和22年(1947年)関東大学リーグ戦が開始されて以降、リーグ戦が中止されたことはおそらく1度もないはずだ。厳しい練習、激しいトレーニングの成果を発揮する舞台となるリーグ戦がなくなつた。チームにとっても選手たちにとっても大きな目標であるリーグ戦が夢と消えたのである。史上前例を見ない衝撃的な事実が伝えられ、選手たちはその異変をどのように受け止めたらいいのか途方にくれていた。年にたった2回、春と秋に必ず実施されていたリーグ戦の開催ですら当たり前のことではなかったのだ。

ここに掲げた“当たり前のこと”(だと思ひこんでいたもの)は、古代から自然にそこに存在していた空気のようなものではなく、いずれもすべて誰かが汗水流してそのサービスを提供してくれたものだったのである。震災の影響を受け、サービスの提供に纏わるサプライチェーンに支障をきたした結果、普段通りのサービスが提供できなくなり、当たり前の状況が崩壊した。いま我々日本人は総力を挙げて生きて生きている力を結集し、新たに当たり前の状況を作らんと努力を続けている。

第59回早慶バドミントン定期戦、実はこの早慶戦も当たり前のことではない。あたかも当たり前に行なわれているかの如く捉えてしまいがちであるが、たぐさんの先輩達の想いが詰まった大会であり、多くの方々の努力なくして毎年定期的に開催されることもないのがある。毎年毎年、その年の早慶戦のために練習し、会場の準備を行なう方々がいるからこそ、こうして59回目を迎えることができたのだ。早慶両校選手諸君、今日の早慶戦があることに改めて感謝し、この先も多くの後輩たちのためにより良き形で日本最古のバドミントンの定期戦、伝統の早慶戦を続けていくためにも、今日この日に全精力を傾けて戦おうではないか。健闘を祈る。

KEIO WASEDA

祝 早慶バドミントン定期戦

いつもご利用ありがとうございます。

OB・OGの皆様にも同窓会・クラス会・各種パーティーのご予約承っております。

慶應義塾日吉フアカルテイルウンジ

営業時間 AM 11:00~PM 8:00

定休日 日・祝日 (パーティー予約については応相談)

今年も早慶両校の現役、OBが一同に会して競い合う早慶戦がやってきました。この伝統ある定期戦も今年で第59回を迎えることになりました。これもひとえに諸先輩方の努力と熱意の賜物と感謝申し上げます。

今年も監督として戦えることに感謝するとともに大変光栄であり嬉しく思います。はじめに、今年も東日本大震災により、関東学生春季リーグ戦が中止になるなど、部の活動としては大変なスタートでしたが、東日本地域の被害を受けた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。そして、被災された方々の一日も早い復興と皆様の健康を心よりお祈り申し上げます。

さて、我が部においては先の東日本学生では男子がまさかの2回戦敗退という散々な結果でしたが関東学生秋季リーグ戦では奮起して4位の成績を残すことができました。少しづつ、明るい材料もあり、秋のインカレに向けて、チーム・丸となって練習に励んでいるところですが、女子においても優勝を目指していた東日本学生では団体3位でしたが、個人戦で桜井・西山組が準優勝、玉木が3位に入るなど、希望を持って今後の試合に臨める状態になってきております。このような状況のなか、男女とも、今後、より良い結果を残せるよう努力していきたいと思っております。期待しててください。

さて、今年の定期戦ですが、全員で一丸となり慶応に臨み、是非勝利をものにしたいと思っております。しかし、いつも独特の雰囲気の中で行われる早慶戦は過去いくつもの名勝負が実力を超越したところで勝敗がついて来ました。選手諸君には今年も気合い負けせず、日頃の練習の成果を充分に発揮し早稲田らしく悔いのないプレイを見せてほしいと思います。特に4年生には学生最後の定期戦として、後輩達の見本となるよう全力をつくして必ず勝利してもらいたい。そして、良き思い出をつくってください。

最後に、今年も慶応の現役、OB諸氏と共に、より良い試合を展開し、より両校の友好が深まることを望みます。

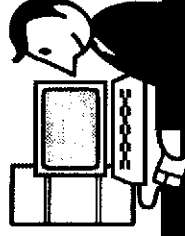
WASEDA VS KEIO

がんばろう！早稲田

皆一人じゃない！みんなが力を合わせて頑張ろう



専業支援システムのエキスパート
株式会社エスパ



東京都豊田区両国 3-19-5 シュタム両国ビル2F

TEL: F4-X 03-5624-7232 URL: <http://www.e-space.ne.jp/esp>

代表取締役 細村悦子
(S60年度卒)

高井貞夫

1953年第1回早慶戦以来慶応は111連勝しましたが、その後早稲田さんの負けじ魂と卓越した技術の前に屈してしまいます。出場した第8回、50年も前の事を今でも懐かしく思い出しますが、「慶応に負けるな!」そんな強い思いが当時の早稲田さんの試合に表れていました。

実力が凄絶した今、早慶戦が終わると新年度の執行情が誕生しますが、その第一目標は「早稲田を倒す!」「早稲田に勝つ!」です。力の差、技術の差はあっても「決して諦めない!」「拾い続ける!」「動き続けて精魂尽き果てるまで戦い続ける!」そんな決意を胸に、毎年全員が打倒早稲田!を大きな紙に書き付けて持ちます。

でも学生トップを目指している早稲田さんの壁は厚く、高く立ちただけありません。昨年も圧倒的な強さの前に、女子の榎田が榎田君から1ゲーム取りましたが、男子は1ゲームも取れず悔しい涙を流しました。この10年の戦いで男子は111勝しかあげていません。

しかし、57回には基本がシングルスで小松君に、中島とベアを組んだダブルスでも、小松・及川両君に接戦の末に勝利もぎ取りました。森本は4年間見ただ中で信じられない粘りを見せ最高の試合をし、女子では過去6年0勝の屈辱を晴らすために榎田がオールKEIOの熱狂的な応援の中で、強敵・丁塚君をセットオールの未破ると言う快挙を成し遂げました。

53回・54回では、ダブルスの申し子中村翔一が山口悦伺とのコンビで、小瀬・山口君ベアに手に汗握る3ゲームの接戦を2年に亘り続け、耐えに耐えてものにし精魂尽き果て床に倒れ歓喜の涙に暮れました。勝利の喜びをこんなに表現出来るのは早慶戦以外では見られません。

早慶戦に出場するのは我が現役学生最後の最終目標です。実力が伯仲している多くの選手達はこのチャンスを得るために選抜試合では辛い練習から培って来た技術を最大限に発揮し、最上級生は目の色を変えて学生ノバドミントン生活最後の晴れ舞台を早慶戦に求め編を削ります。

全力で戦って汗に輝き、結果として例え1勝でも2勝でも、4年間の熱い思いを果たし涙に震える後輩達の姿を見るためにOB・OG達は今年も応援に行きます。そしてオール早慶の大声援の中、山口・榎田両上將の最後の戦いは一瞬たりとも眼の離せない素晴らしいものになる筈です。そんな學生に胸を貸し、「早く対等に戦えるように頑張れよ!」と励まして力を抜かずに攻めてくれる早稲田さんの素晴らしい素晴らしいスポーツマンシップに感動します。

私はシャトルを追いかけると真剣な眼差しや若々しい姿を、躍動するプレー振りを、写真に捕るのが嬉しい役目と思ってしまうし、戦い終わりの懇親会で和気藹々、溢れる笑顔の面校現役諸君やOB諸君を取めるのも楽しみです。早稲田さんに追い付き、追い越せが我々慶応の夢です!哲生・悠面主将初め現役諸君よ!夢を叶えるために精一杯戦え!相手を倒すまで動き回れ!なでしこジャンパンのように!

KEIO

慶早戦
寄せて

WASEDA

慶應義塾大学 商学部 昭和63年卒
園田直孝

第59回慶早ノバドミントン定期戦の開催を心よりお祝い申し上げます。

本誌への寄稿を依頼されました際、私は大学2年生時(第33回)の慶早戦を思い出しました。初めてシングルスに出場させて頂きながら期待に沿えず、大学自体も敗れてしまいました。自分が勝っていたらと悔しいやら、申し訳ないやらで夜も眠れず、情けない気持ちで過ごした事を覚えております。先輩からも「園田は良い試合をするけど、勝てないよなあ。負け癖をつけたら駄目だよ。」とご指導を頂き、その後は負け癖の払拭に日々努力したように思います。残念ながら慶應は卒業まで一度も勝てませんでした。卒業2年後および3年後に、一緒に練習してきた後輩たちが勝利してくれました。実に嬉しい限りでした。

この「負け癖」という言葉は、今でも仕事上で使わせて頂いております。負けに慣れてしまうと反省も成長もありません。私にとつての慶早戦は人生の教訓を与えて頂いた晴れの舞台でした。

皆様にとつても、慶早戦と言えど、何かが湧き上がる感慨深いものではないかと思えます。現役の皆様も、今感じるものをお持ちでしょう。その思いはこれから慶早戦の度に甦ります。例え結果的に嫌なものが残っても、それも慶早戦の賜物ですから素直に受け入れて、次に繋げて前進して下さい。

さて昨今、実績では慶應は早稲田に相当差をつけています。然しながら、練習量では決して負けないというのが慶應です。スマートでも華麗でもない、ただ只管泥臭いブレースタイルが、早稲田を破る日が必ず来ます。慶應の現役の皆様、心より期待致しております。

そうは言いつつも早稲田の皆様、早稲田は常に慶應の高い目標であり続けて下さい。早稲田の躍進は、慶應OBにとつても嬉しい限りです。是非、頂点を極められることをお祈り致しております。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり、ご尽力、ご支援を賜りました皆様、本当にありがとうございました。厳しい練習を乗り越えた選手の皆様が、万全の体勢で試合に臨み、魂の1点ずつが積み上がっていきまことを、コーナーの後ろから大きな声で応援致しております。

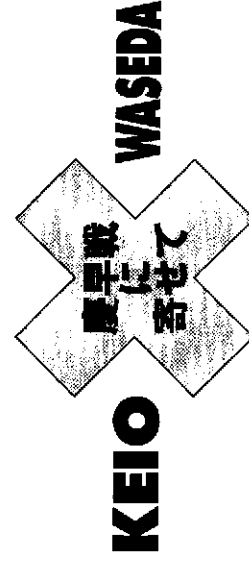
和栗 恵

第59回早慶バドミントン定期戦開催、誠にありがとうございます。本大会開催にあたり準備委員をはじめ、運営に携わっていただいた全ての方々に御礼申し上げます。

さて、日ごろ女子部員の練習相手として記念館に足を運ぶ私ですが、このような機会をいただいたので、私自身が現役頃の早慶戦を振り返ってみました。

私は2年生から4年生までの3回、早慶戦に出場させていただきました。初めて出場した早慶戦では、学生トップクラスの選手と対戦することへの期待や闘争心と、3部リーグですら満足に勝ち星をあげられない自分への焦りや不安をかかえて、試合当日を迎えたことを覚えています。柔の定、壁の太きさ、圧倒され、不甲斐ない試合をしてしまったことへの悔しさが残りました。しかし、現役最後の早慶戦だけは、それまでとは違いました。4年間いろいろな方々に支えられ、自分なりに精一杯の努力をしてきたのだから、慶應の代表としての自信をもって試合に臨もう、そして今ままで支えてくださった方々への感謝を込めてプレートをしようとして立ちました。試合に勝つことはできませんでしたが、早稲田の選手への尊敬の思いと、このような機会をいただくことができ、早慶両校の伝統の中に身を置くことができ、良かったです。

早いもので、私がOGとして迎える3回目、早慶戦となります。そして私が現役として一緒にプレーをした後輩の最後の大会となります。彼女らと一緒に過ごした現役生活は約半年ですが、今でも鮮明に覚えています。彼女らの武器は、「ひたむきさ」ではないかと思っています。入部してからの1年間は、どうしたバドミントンの上達するか、良い練習ができたか、後輩たちが成長できるか……悩み、迷い、時におつかりな気がします。ひとつひとつ積み上げてきたひたむきな努力の成果を存分に発揮してください。3年生以下は、目の前で起こる全てのことをよく見て、吸収してください。早慶戦は最上級生の集大成を見せる場であるとともに、後輩たちへ伝統を引き継ぐ場でもあります。山口主将、植田主将率いるチームが、今までで一番輝く日になることを、そして新しいチームが最高のスタートを切る日になることを心から願っています。



「歴史と伝統」!! 手作りの店
部員会に! 其の他のパーティーに!

山 食

慶應義塾三田キャンパス内
TEL 03 (3453) 5971

真栄城 優

昨年の早慶戦、私は「最後まで食らいつくラリー」を掲げ、どうにか早稲田から1勝をもぎとろうとした。技術、体力とあらゆる面で早稲田の方が格上であり、その相手から勝利を掴むにはもはや理論云々では通用しないと思ったからである。また正直な話、早稲田と慶應では圧倒的な実力差があり、そんな我々に対して早稲田は本気ではかかってこないのではないかと考えていた。その相手から本気を引き出すことが我々、慶應の第一歩であり、それにはつまらないミスで点を与えるのではなく、まずは早稲田相手に粘り強いラリーをして相手に嫌だなと思わせることが大事だと考えたからである。確かに勝利には繋がらなかったものの、実際早稲田相手に嫌だなと思わせ、相手の実力を引き出せていた場面も何度かあったように感じた。

そして最後の主将戦、相手はその年のインカレ単複を制した上田拓馬である。上記の様に考えていた私は、序盤はある程度ラリーが出来るであろうと試合前に考えていた。しかし実際試合が始まってみると、上田拓馬くんは最初から猛烈に仕掛けてきた。私はどうにかラリーに持ち込もうとするも続かず、1ゲーム目はなんと1点しかとれなかった。別に緊張していたわけでもない。10年間バドミントンをやってきてかかってこれほど点数を取れなかったことがあっただろうか。2ゲーム目が始まる前「もうこうなったら自分の10年分全部出そう」と強く思った。自分のバドミントンの集大成としてこれ以上、最高の相手がいるだろうか。周りで見た人達がどう思うかここはもう自分がやりたい様にやろうと思った。結果として変に考えずプレー出来た結果、1ゲーム目より良い動きが出来た。

伝統ある早慶戦のコートに立つ者にとって、チームを背負うということとはとても大切なことだ。しかし、私はコートに入ったら後はチームのことは忘れて自分の力を出すことに全力を出せば良いと思う。そうすることがまた、早慶戦の歴史を新たにすることだと思う。

今年度の早慶戦も早慶の実力の間に大きな隔たりはあるが、それでも互いにその日のベストを出し尽くしてほしいと願っている。早稲田は慶應を圧倒的にねじ伏せるつもりで、慶應はそこから必死にもがき、一筋の光明を得て大きな勝利を手にするつもりで。両者の全力を期待する。



特殊鋼他各種金属素材の切断加工販売いたします。

五味洵鉄株式会社

代表取締役 五味洵 努（昭和63年慶應大学法学部卒）

本社 横浜市都筑区川向町922-26

TEL045(474)4560 FAX045(474)0003

E-mail : go3buchi@f3.dion.ne.jp

郡山支店 福島県郡山市喜久田町菖蒲池22-165

TEL0249(59)1511 FAX0249(59)1516

早稲田大学 スポーツ科学部 平成23年卒 (前年度主将)
上田 拓馬

伝統ある早慶バドミントン定期戦が、今年もまた無事例年通り開催されることを嬉しく思うとともに白熱した名勝負が展開されることを非常に期待しております。

私は昨年の早慶戦では西本君と組んでのダブルス、そして真栄城君との主将戦に出場させていただきました。インカレを終え、さらにナショナルチームでの遠征が続く中での試合でしたが、早稲田のチームで戦う最後の試合として、私にとって大きな節目の試合であるという意識を抱き、試合に臨みました。結果は我がチームの勝利となりましたが、それ以上に共にチームを引っ張ってきた同級生達やそれについてきてくれた後輩達との最後の試合を終えたこと、そしてその大切な舞台を1年間切磋琢磨し合ってきた慶應の諸君と共に戦い抜くことができたことに大きな感動を覚えたことを、一年経った今でも昨日のことのように思い出すことができます。

早慶戦は両校にとって決して欠かすことのできない大切な試合です。1年生は早慶戦だけが持つ独特の雰囲気をもっと感じることに思いますが、2, 3年生にとってはチームを担う立場へ移るステップとなります。そして特に4年生にとっては言うまでもなくチームから引退する最後の試合となります。自分の代を含め早慶戦を終えて後輩にバトンを渡していく4年生の姿をたくさん見えてきましたが、大会に向けて全力で取り組んだ先輩方は結果にかかわらず誰もがバドミントン部での4年間を全うした達成感を得ていたように思います。現役諸君にもそれぞれ早慶戦に自分なりの意味を見出して臨み、有意義なものにしていただきたいと思います。

最後になりましたが、今大会を運営なさる方々に感謝し、早慶両校の更なる飛躍につながる大会になるように御健闘をお祈り申し上げます。



ウインザーテニスコート

☎ <http://www.windsor racket.co.jp/badminton/>
 🌐 <http://tennis-w.com/badminton/>

新宿店 西口・東横線 都立大前駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅	池袋店 東口 有楽町線 池袋駅
千葉店 千葉線 千葉駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅	八王子店 八王子線 八王子駅
上野店 有楽町線 上野駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅	町田店 東武東上線 町田駅
梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅	梅田店 東山手線 梅田駅

【営業時間】
 10:00~20:00
 【定休日】 年中無休

今年も慶早バドミントン定期戦という、伝統の戦いを迎えることができ、大変誇りに感じております。まず、この伝統の慶早戦の開催にあたり、ご尽力いただきましたOB、OGの皆様方、準備委員、そしてこの一年間我々を支えてくださった全ての方々に心から御礼申し上げます。

また、今回の開催で59回目を数えるこの歴史ある大会に主将として堂々と出場できることに、言いようのない名誉と喜びを感じております。

さて、昨年我々慶應は春季リーグ戦5部降格という屈辱を受け止め、4部昇格のため必死に練習に励んで臨んだ秋季リーグ戦、結果は5部2位、残留。その後1カ月はまたたく間に過ぎ、心の整理もできぬまま臨んだ慶早戦ではこれまでにない大敗を喫しました。

より真剣に慶早戦に向き合い、準備を重ねる必要があると考えた私たちは、「3つのK～勝つ・厳しき・協調～」というチームビジョンを掲げました。特に男子は4部昇格と3部昇格というリーグ戦の目標に加えて、「慶早戦を常に意識して練習に取り組む」といった目標を掲げて、前年度の慶早戦での早稲田諸君のプレーを脳裏に焼き付けて練習に励んできました。第58回目の慶早戦を終えてすぐ、私が主将としてのチームが走り出したその日から、練習メニューを書くホワイトボードに一日一日、来る第59回目の慶早戦までの日数を書き続け、ことあるごとに早稲田の選手の名前を口にしてきました。苦しい練習をこなすときも、○○に勝つてやる」という気持ちを持ち続け、乗り越えてきました。

我々慶應義塾体育会バドミントン部は、代々このチームに対する熱い思いを引き継ぎ、その思いを胸に最上級生は一年間、考え抜き、苦しみ抜いてよりよいチーム作りに励んでいくものだと感じております。この思いの中には、必ず慶早戦に対する思いがあります。これまでお世話になってきた光井元主将、渋谷元主将、真栄城前主将の思い、さらに時を遡ってご活躍なされた諸先輩方の思いを引き継ぎ、いま私たちはここに立っています。現在の慶應と早稲田の選手の實力の差は認めざるを得ません。しかし、どうにかしてこの実力差を埋めていきたい、どうにかして場を驚嘆させる試合を増やしていきたい、打倒早稲田を果たしたい、そんな思いで一年間主将を務めてきました。

思えばこの4年間はまさに光陰矢の如し。しかし、確実に皆で成長してきました。常日頃から応援していただいたきたOB、OGの皆様方、ここまで私を育ててくれた先輩方、この一年間、私と共にチームを支えてくれた同期、私たちが最上級についてきてくれた後輩達、心の底から感謝申し上げます。

そして早稲田諸君、この素晴らしい場であなた達と戦えることを私は生涯誇りに感じるでしょう。心から敬意を表したいと思います。今日、慶應は持てる力を全てぶつけてあなた達に挑みます。来年も再来年もその先もずっと、脈々と受け継がれる思いを胸に一歩一歩前に進み、慶應はあなた達と戦い続けます。

KEIO VS WASEDA

祝 第59回早慶バドミントン定期戦

さくらグループ

ひよし鍼灸院・センター接骨院

港北区日吉本町1-5-7 日吉センタービル1F

日吉駅西口中央通り沿いampm向かい徒歩3分 ☎045-564-0217

おくさわ鍼灸接骨院

世田谷区奥沢3-37-7 柴田ビル1F

奥沢駅南口諏訪山通り沿い徒歩3分 ☎03-5457-5327

今年も早慶戦という伝統の戦いを迎えられることに、大きな喜びを感じております。まず、今定期戦を開催するにあたり、OB、OGの皆様、準備委員、そして我々を支えて下さった全ての方々に深く御礼申し上げます。

早慶戦という舞台は私達にとって、非常に大きな存在であり続けてきました。多くの先輩の最後の勇姿を1年生の頃から見続けてきました。特に最後の主将戦は私達の心に深く刻まれています。気持ちのこもった先輩方のプレーは今でも忘れることができませぬ。そして今年、自分がそのような舞台に主将という立場で臨めることに大きな喜びと責任を感じています。

私達チーム一回は、長年受け継がれている「自ら、全員でやる」という伝統の下、日本一を目標に日々練習に励んできました。そういった環境の中で育まれた下級生達ののびのびとした雰囲気と、チームを少しでも良いものにしようと取り組んできた上級生たちの情熱が組み合わさることで生まれる早稲田の勢いを存分に発揮したいと思えます。

慶応学生の諸君、お互いに日頃の練習の成果を十分に発揮し、正々堂々と伝統の一戦にふさわしい最高の試合をしようではないか。

最後になりましたが、常日頃から応援激励してくださっているOB、OGの皆様には厚く御礼を申し上げます。主将の抱負とさせていただきます。

WASEDA KEIO

炭火香房 楽丸

座敷 全80席
テールブル席 60席

得 宴会コース

飲み放題+料理5品 ¥2500

20:30以降 飲み放題+料理3品 ¥2000

高田馬場駅前名店ビル4F

TEL 03-3209-5768

KEIO



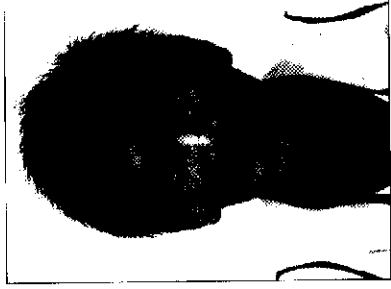
主将 山口 哲生
山口 理工 4

藤島 (福井)
スベリ続けてもう4年。
ついにこの日がやって
きた。鍛え上げたムキ
ムキマッチャヨな肉体で
闘うのだ。絶対勝つ
ぞ！立つのだ、哲人て
っお！いざ出撃!!

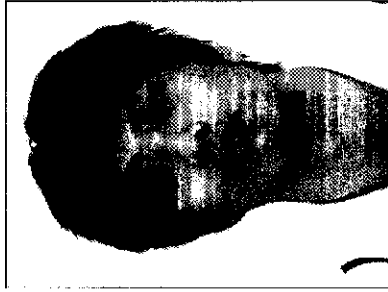


副将 竹内 裕詞
竹内 総合 4
旭丘 (愛知)

熱いハートで部員を引
つ張る番長。いや副将。
自宅でもトレニング
をする彼は、最後の早
慶戦で気迫を爆発させ
る！

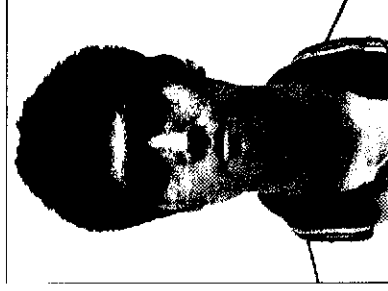


主務 須賀 亮太
経済 4
慶應義塾 (神奈川)



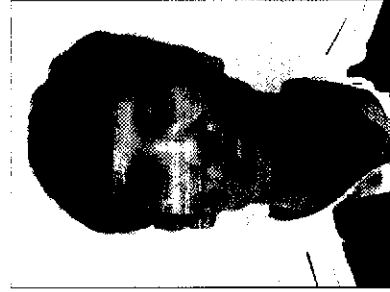
我らが頼れる主務、須賀さん。ただ長身から見下ろされるが話すと萎縮する部員がいる、という噂も...

野村 和秀
商 4
土佐 (高知)



4年生になってさらに頼れる男となったノムさんは、スマッシュをコートに叩き込む。その姿に憧れる後輩も多く、練習後にはおごつてもらおうとする後輩に囲まれて大変そうだ。

柳原 秀
理工 4
逗子開成 (神奈川)



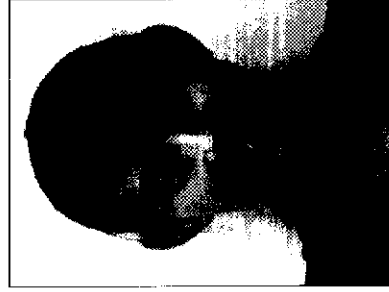
気合いの雄叫び柳さん。プレー中は点を決める度にガッツポーズと叫び声。しかし部活が終わるとユルキチャラへと変貌しニヤニヤ顔が止まらない。

三澤 悠大
総合 4



日本大学第三 (東京) 普段はおとなしい、みーさん。日々、部員が持ってくるたたくさんの領収書と格闘している。そんな真面目な彼はバドミントンだけでなく、トーク力も大幅にパワーアップした。

女子主将 植田 悠
環境 4
九州国際大付属 (福岡)



女子のエースと呼ばれ続けた彼女もとうとう4年生。オフコートの可愛らしい行動もだが、やはりオンコートでの集大成に期待大。

女子副将 佐保田 恵
環境 4



多摩 (神奈川) 持ち物が全部可愛く、ユニフォームのたたみ方が綺麗すぎて、部内断トツの女子力の高さを見せつける。力強いのはコートの中と笑い方だけ。

松本 悠莉亜
法政 4
慶應義塾女子 (東京)

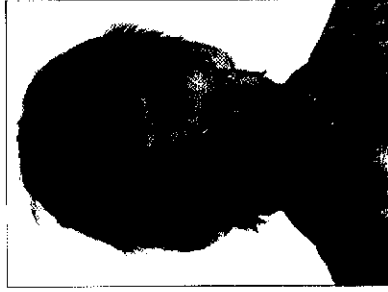


物静かな雰囲気に加え、部内では情報管理を担当する彼女。透き通るような声にも注目だが、役職で鍛えられた分析力で今日も相手を切り崩す!

主務 田中 優子
商 4
都立小石川 (東京)



コリン星からの刺客ゆうこりん。洗練されたシヨットに加え、必殺セクシーゲームで相手を翻弄する。その艶やかな動きに注目!



小澤 雄貴
文3

桐光学園 (神奈川県)
肌の白さが夏の線
習量を物語っている。
この白さはかなり
の強者であり、まさに
顔面蒼白!! 鍛えたフ
ットワークは超~軽く、
私生活でも白々さを
発揮している。



川口 太希
文3
南山 (愛知)

3年になりかっこのいい
という言葉にもうまく
応対する。きれいなフ
ォームからは連想しづ
らいほどの熱い暑いハ
ートで強敵に立ち向か
う。



岩橋 俊明
商3

帯広柏葉 (北海道)
コメントは常に辛口で
厳しいが、味付け無し
のお手製特大おにぎり
をほおぼる姿はなぜか
微笑ましい。そんな彼
は去年の雪辱を果たす
べく、日々トレーニン
グに打ち込んでいる。



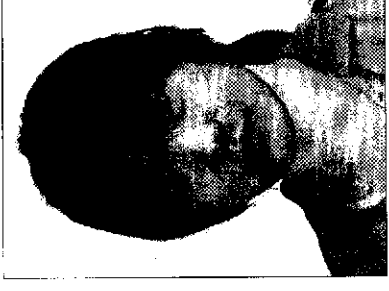
副務 三浦 基嗣
理工3
修道 (広島)

最近自慢のドヤ顔で嬉
しそうに話しているが、
新しく出来た彼女の話
のようだ。得意のスマ
ッシュを決めた時と同
じぐらい幸せそうなド
ヤ顔である。



副務 有高 李佐子
経済3
慶應義塾湘南藤沢 (神奈川県)

省エネ志向のりさこと
ん。しっかり者で何事
もそつなくこなすスー
パーサブ。プレーから
もしっかり者が滲み出
ている。



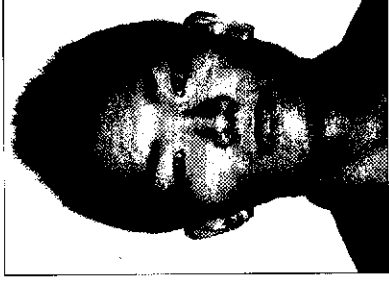
高崎 友里香
経済3

慶應義塾女子 (東京)
元氣さとパワフルさが
衰えることのない慶應
の元氣印。有り余るバ
ワフルさでコート内を
かけまわる。そんな彼
女の試合の中でのリア
クションのでかさにも
注目。



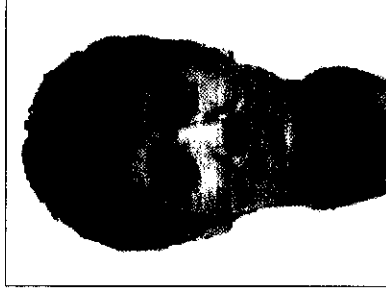
岸本 裕紀子
商3
普通士学園 (東京)

みんなのお姉さんこと
ゆっこさん。いつも笑
顔で親切に対応してく
れる姿を見せるが、コ
ートの中では鋭いスマ
ッシュが炸裂する。



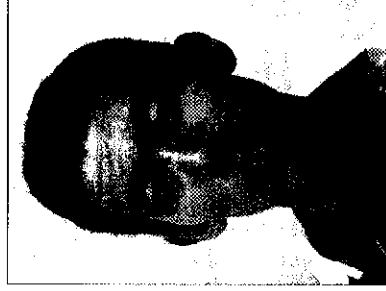
阪本 暁洋
文2
西武文理 (埼玉)

慶應のアツキーナ。そ
の情報収集能力で早稲
田のプレースタイルか
らプライベートまでも
知り尽くしている。情
報量では負けない。キ
リッ!



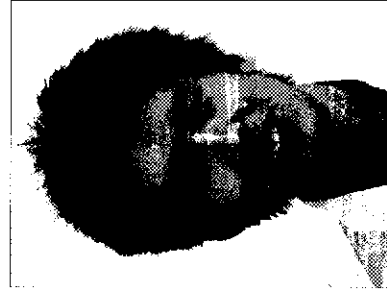
平林 桂祐
文2 松本深志 (長野)

一年生に早くも平林二世が現れてしまい影が薄れるかと思われたが、さすが本家と言わんばかりの格の違うスマッシュユエを見せつける。



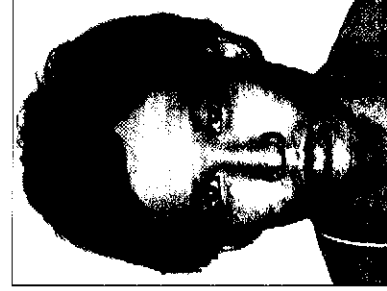
榎本 諭
経済2 サレジオ学院 (神奈川)

とりあえず細い。その細さは常に女子部員の羨望の的だが、本人は悲しそう。プロテイン効果で最近筋肉がついてプレーも力強くなっている。



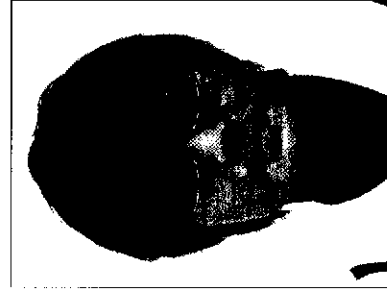
前川 潤
経済2 時習館 (愛知)

いかなる練習もニヤニヤと…いやニコニコとこなす潤子。しかし、その変態にやけっぷりとは裏腹にバドに関しはとてども研究熱心なのだ。



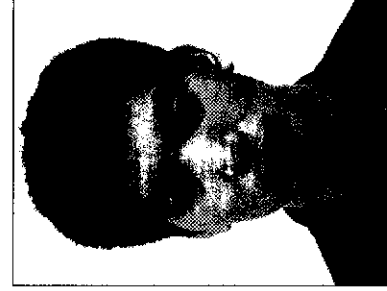
八木 勤輔
経済2 士佐 (高知)

かちゃん。語尾は「ぎ」。先輩後輩大好き。Gスラッシュはもって好き。プレー中興奮するとうるうるして隣のコートにお邪魔しかねない。



大山 研一郎
商2 倉敷青陵 (岡山)

財政難を嘆く我らが「やまおー」こと大山。実はお金に無頓着。しかしプレーになるとシヤトルに執念がこもっている。



梶原 章宏
商2 栄光学園 (神奈川)

入部当初からOB並の買祿を持っていたが、2年にして長老と呼ばれるまでの買祿を手に入れた。一方、プレーは粘りがあってとってもしつこい。



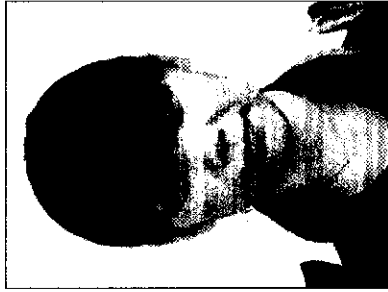
桐生 聡之
理工2 慶應義塾志木 (埼玉)

前髪とカットの角度に並々ならぬ執着心を持つ。二年になり新たな役職を与えられ敬語が得意分野に。彼の好きな言葉は「悪いです」。



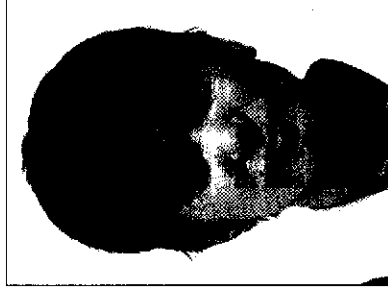
坪井 知也
理工2 西湘 (神奈川)

帰宅の速さと寡黙さは相変わらずである。そんな彼だが、この1年で大きく成長し、バドミントンの実力の向上のみならず、後輩への思いやりも持った頼もしい男となった。



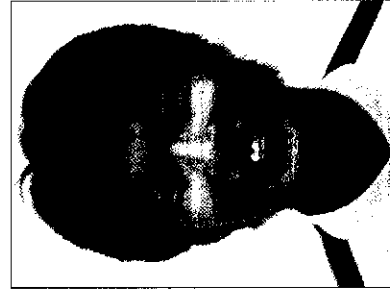
池田 真紀
薬2
宮城第一 (宮城)

美白で東北美人な彼女はやっばりどこか抜けている行動・話術で他人を惑わしどこに誘うのだからか。そんな彼女はプレー中も相手を惑わす。



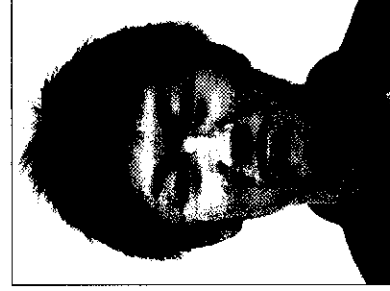
前表 和宏
法法1
慶應義塾志木 (埼玉)

平林2世。いつも国分太一のような笑顔を振りまくが、随所に熱い向上心が垣間見れる。急上昇中の彼は早稲田を食いにかかると。



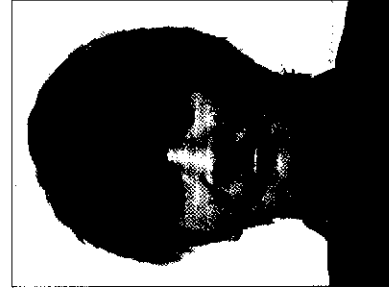
高田 大地
法政1
土佐 (高知)

礼儀正しさが際立つ高田。彼は今某先輩によって植え付けられた土佐高=チャララというイメージを払拭すべく日夜奮闘中。



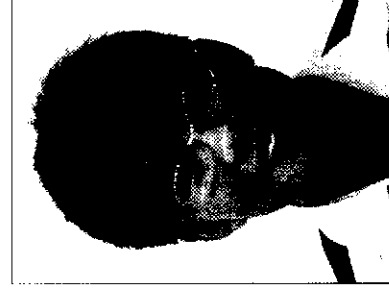
寺内 俊樹
法政1
宇都宮 (栃木)

我が部のツンデレ担当。たまにみせる笑顔が愛くるしく、ハムスターに似てる。そんな彼はコートの中でもシャカシャカ動き回っている。



程島 朋海
商1
平塚江南 (神奈川)

ぼくとモミ。可愛い名前して肉食系男児やっています！もちろんコートの上でも肉食系。スマッシュバッチ子コーン!!



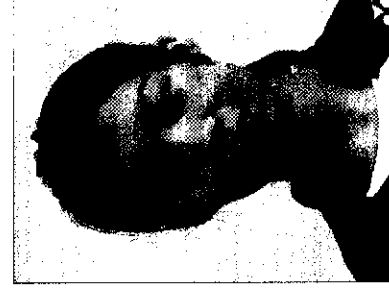
池田 岳弘
理工1
熊谷西 (埼玉)

THE愛されキキャラの池ちゃん。どんな仕事も文句1つ言わず、愚直にこなす。キャップとブレーのギヤップがちよっくから怖かったりする。



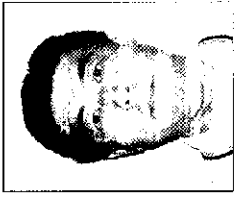
京河 凌平
環境1
松山東 (松山)

チャラい=京河、の方程式がもはや自明のこととなっていて今日この頃。敬語を話そうと健闘するが、今日もあの強烈なスマッシュと愛嬌弁が炸裂する。



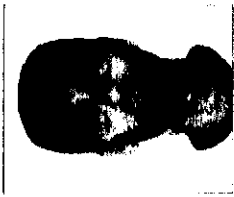
関 衿沙
経済1
慶應義塾女子 (東京)

女子高出身の彼女はやはりデキ女である。しかしそればかりでなく、速すぎるスマッシュとマシンガントークで相手はたじたじである。



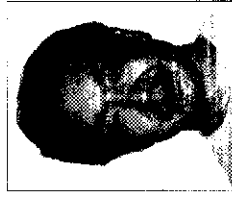
監督 五月女 季孝
Toshitaka Saotome
昭和60年理工学部卒
桐朋学園(東京)出身
野村アセットマネジメント

「試練は苦しいものではなく我が身を磨くもの」
今の苦しきだけを見つめれば単なる苦行だが、将来の我が姿を想像すればそれは至福への誘いとなる。



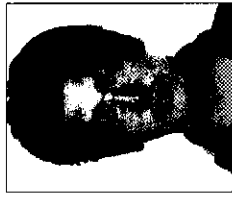
ヘッド・コーチ 加藤 幸司
Kouji Kazuh
昭和57年法学部卒
慶應義塾志木(埼玉)出身
慶應義塾大学体育研究所

「夢は見るものではなく叶えるもの」
“夢”とは、自分自身がいつか必ず達成することの明確な目標であり、私は常にそれを意識している。



コーチ 加藤 正裕
Masahiro Kato
平成2年経済学部卒
慶應義塾志木(埼玉)出身
三菱UFJ信託銀行

「歴史は起きるものではなく作るもの」
過去、時代の流れの中で劇的な変化があったとき、そこには必ず歴史を動かした人がいる。



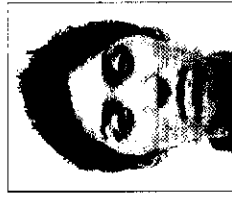
コーチ 巽 弘樹
Hiroki Tatsumi
平成6年経済学部卒
慶應義塾(神奈川)出身
明治安田生命保険

「花嫁は探すものではなく出会うもの」
あらゆることが努力で成し遂げられるわけではなく、人との出会いには運命的なものも存在する。



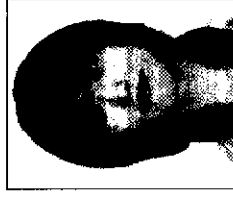
コーチ 三壁 敏隆
Toshitaka Mikabe
平成14年法学部卒
桐蔭学園(神奈川)出身
日機装

「運は願うものではなく呼び込むもの」
バドミントンの女神様が微笑んでくれるのをただ待つのではなく、微笑ませようと努力すべし。



男子監督代理 手塚 純平
Junpei Tezuka
平成20年法学部卒
慶應義塾(神奈川)出身
東京海上日動火災保険

「壁は立ち垂がるものではなく乗り越えるもの」
“壁”という言葉を聞いたときに、「どうやってそれを乗り越えてやるのか」と私は考える。



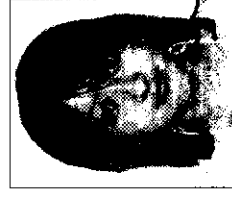
コーチ 和栗 恵
Megumi Waguri
平成21年法学部卒
慶應義塾女子(東京)出身
江東区医師会

「時は過ぎ行くものではなく流れるもの」
時というのは過ぎ去ってしまふような儂い存在ではなく、常に自然とともに流れているものだ。



コーチ 森本 修介
Shusuke Morimoto
平成22年環境情報学部卒
日本大学第三(東京)出身
慶応義塾大学大学院在学中

「練習は教わるものではなく学ぶもの」
教わるという謙虚な姿勢はととても大切だが、「自らが学ぶ」という主体的な姿勢なくして大成はない。



マネジメントアドバイザー 石川 陽菜
Haruna Ishikawa
平成23年法学部卒
慶應義塾女子(東京)出身
中央大学法科大学院在学中

「法は絶対的なものではなく柔軟なもの」
様々な人が共同で生活するためには規則が必要。でも規則が人を振り回すようでは本末転倒です。

(※) 各コーチの紹介欄に掲載された名言(?)とコメントは、各コーチの人柄や生き様に対して抱いている印象を基に五月女監督が書き綴ったもので、コーチ本人の言葉ではないことをおことわりしておきます。